

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		つくば市福祉支援センターとよさと				公表日	2026年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分なスペースを確保している。	引き続き、安心安全な環境作りを心がけていきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準以上の職員配置になっている。打合せを入念に行うことで適切・丁寧な支援につなげている。	配置を十分に生かせるよう支援力を上げていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		わかりやすい動線、視覚提示など子どもにわかりやすい環境設定をしている。	引き続き、わかりやすく、過ごしやすい環境となるように配慮の必要性に応じた対応をしていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日頃から衛生面には留意し、清潔目づつ感染予防も視野に心地よく過ごせる環境を整えている。	引き続き、子どもの活動場所が清潔で危険のないように整えていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		お子さんへの支援を第一に対応している。特定の部屋の準備はないが臨機応変に使用できる。	引き続き、使用できるよう環境やルール作りを行っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		担当者全員で振り返る機会をもっている。また、課題があれば都度相談できる環境がある。	常により良い支援を意識し、業務改善へとつなげていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		個別面談等でも保護者からの意向を聞く機会を設けている。	今後も保護者評価表や日常的な会話の中からニーズを受け取りながら見直しや改善につなげていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議やミーティングはほぼ全員参加で行っており、意見集約や情報提供ができる場をもっている。	職員ミーティングでの意見交換を充実させて業務改善につなげていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	実施していないが、外部の講師や職員が出入りする中で改善を意識できる環境にある。	実質的な第三者評価については、今後の検討課題としていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部の研修やオンライン研修などを利用して、研修の時間の確保に努めている。	療育経験の浅い職員に対する基礎的な知識や技術を学べる機会の提供を含め、今後も研修の充実を図っていきたい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		利用者には契約時に配布している。市のホームページにて公表している。	職員間でもプログラムの共有と周知に努めている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		個別面談や活動の中で子どもや保護者のニーズを把握し、個別支援計画に反映している。	今後も、同様に個別面談や活動の中で子どもや保護者のニーズを把握し、個別支援計画に反映していけるようにする。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者とクラス担任で確認し、クラスに関わる職員にも共有している。	引き続き、同様に行っていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画は全職員間で共有している。計画に沿った支援となるように、個人記録の際には計画に沿った記載をしている。	引き続き、同様に行っていく。また個々の日のねらいを都度確認していくようにする。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	インフォーマルなアセスメントに偏っているが、多職種が関わることで幅広い視点で評価ができていく。	インフォーマルなアセスメントは経験等により差が大きくなるため、標準化されたアセスメントツール使用は今後の課題である。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに基づき必要な項目は設定している。提供すべき支援を意識して計画作成を行っている。	今後も具体的なわかりやすい支援計画の作成を目指したい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		担当に任せることなくチームで立案を行っている。	今後もお子様の様子等を考慮し、同様にチームで検討していく。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		繰り返しの効果を踏まえた上でマンネリ化にならないよう設定している。同じ活動であっても遊びの要素を多角的に捉え、バリエーション豊かに展開できるようにしている。	引き続き、繰り返しの流れの中で安定して過ごせるようにし、子どもたちの興味や関心を引き出す活動を提供していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	2	個別活動は提供できていない。集団の活動の中で個別の目標を立てて対応している。	正確なアセスメントのためにも個別活動は有効であるため取り入れていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		活動前のミーティングで、活動内容やお子さんに対する配慮事項等を確認し共通認識のもと関わられるようにしている。	継続して、職員間の連携を図り支援していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後に振り返りを丁寧に行い、お子さんの様子や保護者様からの情報を共有し、次回に向けての課題などを検討している。	今後も丁寧な振り返りを行い、よりよい支援につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		クラスの療育日誌、個別記録を記入しており、次の支援に生かせるようにしている。ヒヤリハットの報告、記載、今後の検討も行うようにしている。	引き続き、徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		支援計画を意識した支援の中で年3回は見直しを行っている。見直しの期間外であっても計画の検証が必要な際には柔軟に行っている。	今後も計画を意識した支援を行いながら、適切な見直しができるようにしていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	2	相談事業所とのやり取りや事業所連絡会などには担任や児童発達支援管理責任者が対応している。情報は職員間で共有できるようにしている。	色々な機関を利用している児も増えているためサービス担当者会議などがあれば積極的に参加したい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		幼稚園や保育所等との連携を中心に、必要に応じて、各種関係機関と情報共有や情報交換などを行っている。	その子に関わる関係機関をしっかり把握し、積極的に連携を図りながらより良い支援につなげたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		お子さんの在籍している保育所や幼稚園への訪問を行い、支援内容や情報共有をしている。また、保護者に対しても訪問報告を行っている。	引き続き、園訪問を実施し、よりよい連携ができるようにしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	年度末や年度初めに、特別支援学校との情報交換を行っている。	特別支援学校のみが対象となっている。他は保護者を通しての情報共有となっている。今後の検討課題である。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		5	実施していない。	地域の見発センターの研修等への参加を検討していきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5	施設としては行っていないが、保育所・幼稚園との併行利用児がほとんどである。所属園での様子を見に行ったり情報共有に努めている。	徒歩圏内に交流できる施設がなく、所属園を持つ児が多いため必要性は大きくないと考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		親子通園であるため、お子さんの様子を一緒に共有しながら支援をしている。	引き続き、お子様の課題や発達の状況を保護者様と共有し、手立てを一緒に考えていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		市で行っている家族支援プログラムの情報提供や親の会と合同での勉強会を実施している。	今後も積極的に情報提供等を行う。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時に詳しく説明しているほか、内容の変更が生じた際にはおたより等で周知している。	今後も継続して行っていく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		個別面談や日頃の支援の中で行っている。すてっぷの一等からもニーズを抽出している。	引き続き、個別面談や対話を通して保護者様のご意向を確信しながら進めていきたい。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		個別面談の中で、説明し、保護者様のサインをもらっている。	今後も継続して、丁寧に説明をしていく。また、疑問点や見直し等があった際には適切に対応していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		支援の中で相談に応じたり、必要に応じて、適宜面談等を行っている。	今後も保護者様からの話に傾聴し、必要な助言をしていきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	クラス懇談会を実施したり、親の会主催の座談会での場所・機材の提供などを行っている。	今後も保護者同士の交流ができる場の提供をしていきたい。きょうだい児同士の交流の機会は設けていないが、家族支援という形の中で、相談を受けたり、兄弟間の様子を聞くなどケアできるように対応していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談や申入れがあった場合には、迅速かつ適切に対応するように努めている。苦情受付窓口は重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	引き続き、迅速な対応に努めていきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月おたよりにて課題内容やお知らせ等を発信している。	ホームページでは、自己評価の結果、支援プログラムの内容も公表している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報があるものに関しての取り扱いには十分注意している。個人情報の取扱いに特化した研修も実施している。	今後も個人情報の取り扱いには十分留意していく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		ことばと共にサインを使用したり見てわかりやすい視覚支援を使用するなど伝達方法を工夫している。また、その日の活動内容やねらいをボードに掲載している。	引き続き、同様に対応していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。		4		行事は設けていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		策定はしており、職員間では対応方法について確認をしている。	ご家族に対するの詳細説明はしていないため、今後は掲示板にマニュアルの掲載をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2	策定はしており、重要事項説明には記載している。	定期的に必要な訓練等は行っていないため、今後の課題としていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		インテーク時や年度がかわったときにアンケートへの記入をお願いしている。そこでの把握や日頃の支援の中で聴き取りをするようにしている。	引き続き、同様の対応をしていく。緊急時に適切に対応できるように職員間でも周知しておくようにする。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	年度初め（利用開始時）に保護者から聴き取りをしたうえで、対応方法を検討している。	現在は対象児はいないが、課題等でアレルギーの原因等となりうる教材の使用を見合わせるなどの対応も検討していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画に沿って対応している。	安全計画を適切に活用するために、毎年見直しを行っています。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		避難訓練を実施し、保護者とともに避難したり、避難場所の確認を行った。	避難訓練実施はその日の利用児に限られてしまうが、おたより等を用いて周知に努めている。職員間では十分に共通理解し、安全に避難等ができるようにしていく。
	51	ヒヤリハットの事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットの情報共有、日誌への記載、対応方法の検討をミーティング時に行っている。	引き続き、ヒヤリハットの事項に関しては職員間で共有していくようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会の設置をし複数の事業所で対面研修を実施している。	今後もセンター内に留まらない研修機会の確保を行っていき、緊張感を持った支援に努める。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1	親子通園のため、身体拘束の想定はしていない。やむ負えない場合には保護者に説明をし、了解を得るようにしている。	計画には記載していないため、今後の検討課題としていく。	